

滋賀県外来種リスト 2019

令和元年(2019年) 12月

滋 賀 県

目 次

はじめに.....	1
1. 「滋賀県外来種リスト」の作成と選定基準	2
(1) 選定・検討の体制.....	2
(2) 選定の方針	3
2. 外来種のカテゴリー区分.....	5
(1) カテゴリー区分の考え方	5
(2) 選定種のカテゴリー区分	5
3. 滋賀県外来種リスト 2019	7
(1) 概要	7
(2) 特定外来生物・指定外来種の選定状況	8
(3) 国内外来種の選定状況	9
(4) 滋賀県の外来種リスト 選定種一覧（別表1）	9

はじめに

本来、野生生物の分布は地形や気候など様々な環境条件によって制限され、進化の過程を経ながら種が分化し、地域に固有な生物相が形成されてきた。一方、人間活動が進展するに伴って人や物資の移動が活発化し、国外または国内の他地域から、生物が本来有する移動能力を超えて人為によって意図的・非意図的に導入される生物が増加している。ある地域に人為的に導入されることにより、その生物が有する自然的分布域を越えて存在することになる生物は一般的に「外来種・外来生物」と呼ばれる。

外来種のなかには、在来生物の捕食、採食や踏み付けによる自然植生への影響、競合による在来生物の駆逐、土壌や水質環境の攪乱、在来生物との交雑による遺伝的な攪乱等の生態系への影響や、かみつきや毒等による人の生命や身体への危害、食害等による農林水産業への被害を及ぼし、または及ぼすおそれがあるものがある。

こうした外来種問題は、近年、マングース、アライグマ、オオクチバスなどによる地域に在来・固有の生物多様性や生態系、農林水産業への被害、またタイワンザルが在来種ニホンザルと交雑することによる遺伝的攪乱など、わが国においても各地で顕在化するようになってきている。滋賀県においても、琵琶湖ではコカナダモやブルーギルに加えてヌートリア、チャネルキャットフィッシュ、オオバナミズキンバイなど、また陸域でもアライグマ、ハクビシン、セアカゴケグモなど、相次いで新たな外来種が確認されており、こうした外来種による生態系や農林水産業等への被害やそのおそれはますます増大しつつある。

国では、外来種による生態系、人の生命・身体、農林水産業への被害を防止し、生物の多様性の確保、人の生命・身体の保護、農林水産業の健全な発展に寄与することを通じて、国民生活の安定向上に資することを目的として、平成16年(2004年)に「特定外来生物の生体系等に係る被害の防止に関する法律(外来生物法)」を制定し、平成17年(2005年)6月1日より施行している。また、平成27年(2015年)3月には、わが国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト(生態系被害防止外来種リスト)を公表し、外来種対策の推進を図っている。

滋賀県においても、平成12年(2000年)に出版した「滋賀県で大切にすべき野生生物—滋賀県レッドデータブック2000年版」において、「生態系に悪影響を及ぼす外来種・移入種」として動物34種が選定された。その後、平成18年(2006年)3月には「ふるさと滋賀の野生動植物との共生に関する条例」を制定し、希少野生動植物の保護と野生鳥獣種による農林水産業等に係る被害の防止とともに、外来種対策の推進を図ることとし、規制対象としての指定外来種を選定している(2019年9月現在、13種類)。また、平成27年(2015年)3月には「生物多様性しが戦略—自然本来の力を活かす『滋賀のいのちの守り』—」を策定し、この戦略には生物多様性を脅かす主要な要因のひとつとして外来種対策の必要性が謳われ、行動計画には対策についても記述されている。

このような経緯を経て、今後の滋賀県における外来種対策の基礎資料とすべく、県内において生態系等に係る被害を及ぼし、またはそのおそれのある外来種について生物群ごとに専門家による検討を行い、県内にすでに定着している外来種、および未定着ながら侵入を警戒すべき外来種などを選定した結果を平成28年(2016年)3月に「滋賀県外来種リスト2015」として公表した。このたび、特定外来生物の新規指定や、県内での新規情報を基に、データの追加・変更を行い改訂した滋賀県外来種リストを公表する。

滋賀県野生動植物との共生に関する検討会
会長 小林圭介

1 「滋賀県外来種リスト」の作成と選定基準

(1) 選定・検討の体制

「滋賀県外来種リスト」の作成にあたり、平成16年(2004年)7月に「滋賀県移入種問題検討委員会」(後に「滋賀県外来種問題検討委員会」に改称)を設置するとともに、植物部会、ほ乳類部会、水生生態系部会の3専門部会を設けるとともに専門委員の協力を得て、平成17年度(2005年度)にかけて検討を行った。その結果を基に「滋賀県野生動植物との共生に関する検討会」において、新たな外来種の新規追加や外来種の生息・生育状況の変化に関する最新の情報を加え、平成27年度(2015年度)に再検討を行い「滋賀県外来種リスト2015」として取りまとめ、公表した。このたび、その後の変化を踏まえた改訂版として「滋賀県外来種リスト2019」を発行するものである。

「滋賀県外来種リスト」検討メンバー 令和元年(2019年)9月現在

【検討委員】(滋賀県外来種(移入種)問題検討委員会を母体とする)

	氏名	専門分野	職
	小林 圭介	植物	滋賀県立大学名誉教授・滋賀自然環境研究会 会長
※	故 村長 昭義	植物	元愛荘町立秦荘東小学校 教諭
	高柳 敦	哺乳類	京都大学農学部 講師
※	高橋 春成	哺乳類	奈良大学文学部 教授
	亀田佳代子	鳥類	滋賀県立琵琶湖博物館 研究部長
	松井 正文	両生・爬虫類	京都大学名誉教授(京都大学大学院人間・環境学研究科 教授)
	松田 征也	魚類・貝類	滋賀県立琵琶湖博物館 環境学習センター長
※	前畑 政善	魚類	神戸学院大学教授(滋賀県立琵琶湖博物館 上席総括学芸員)
	八尋 克郎	昆虫類	滋賀県立琵琶湖博物館 総括学芸員
※	故 遠藤 眞樹	昆虫・クモ類	滋賀虫の会 会員
	白居 仁司	昆虫類(特に農業害虫)	滋賀県審議員
	中井 克樹	貝類	滋賀県立琵琶湖博物館 専門学芸員
	渡辺 弘之	その他陸上無脊椎動物	京都大学名誉教授

(※を記した方は、2019年9月現在、検討委員を退かれています。)

【部会員・専門委員(2004年検討当時)】

部会/専門委員(専門分野)	氏名	職
植物部会	小林 圭介	(検討委員)
	布谷 知夫	三重県総合博物館前館長(滋賀県立琵琶湖博物館上席総括学芸員)
	青木 繁	滋賀自然環境研究会 会員
哺乳類部会	高橋 春成	(検討委員)
	名和 明	元愛知県立鳴海高等学校 教諭
	阿部 勇治	多賀町立博物館多賀の自然と文化の館学芸員
水生生態系部会	前畑 政善	(検討委員)
	松田 征也	(検討委員)
	中井 克樹	(検討委員)
	(故)浜端悦治	滋賀県立大学環境科学部 准教授

専門委員(総括事務)	梶 雅弘	滋賀自然環境研究会会員
専門委員(植物)	西川 博章	滋賀自然環境研究会会員
	村瀬 正成	滋賀自然環境研究会会員
	(故)村長昭義	(検討委員)
専門委員(哺乳類)	三浦 貴弘	(財)自然環境研究センター
専門委員 (昆虫・クモ類)	初宿 成彦	大阪市立自然史博物館 学芸員
	松本吏樹郎	大阪市立自然史博物館 学芸員
	南 尊演	元滋賀県立八幡高等学校 教諭
	宮武 頼夫	関西大学非常勤講師・元大阪自然史博物館館長
	八尋 克郎	(検討委員)
	山本 雅則	滋賀県湖北地域振興局農産普及課 主幹
	吉田 真	立命館大学名誉教授(立命館大学理工学部 教授)

(2) 選定の方針

滋賀県は、世界屈指の古代湖である琵琶湖やその周囲に広がる肥沃な沖積平野を、鈴鹿山脈、伊吹山地、比良山地、比叡山地などの山々が取り囲み、これらの山地を源流として大小の河川が琵琶湖へと注いでいる。このように琵琶湖を中心とする多様な環境に恵まれ、生息・生育する野生生物の種類、そしてそれらが構成する生態系も多様性に富んでいる。しかし、外来種のなかには、こうした豊かな生態系や野生生物に深刻な影響を与えるものがあり、それらを放置すればさらに事態は悪化するおそれがある。

このため、滋賀県内に生息・生育する外来種への対策としては、「特定外来生物の生態系等に係る被害の防止に関する法律」(以下、「外来生物法」という。)が規定する特定外来生物に指定された外来種への対応を検討するとともに、必要に応じて「ふるさと滋賀の野生動植物との共生に関する条例」(以下、「野生生物共生条例」という。)の規定する指定外来種の指定を行ったうえで、「生物多様性しが戦略ー自然本来の力を活かす『滋賀のいのちの守り』」に沿って適切な対策を講ずる必要がある。

こうした外来種への対策は、すでに定着済みの外来種に対するものと、定着を未然に防止する段階にある外来種に対するものとは、大きく異なってくる。そのため、このたび滋賀県外来種リストを作成するにあたっては、滋賀県内の野外で捕獲・目撃等の確認情報がある外来種と、滋賀県内への導入または侵入のおそれのある外来種を対象とした。ここで、導入とは野生生物のもつ移動能力を超え、人為によって意図的・非意図的に本来の分布域でない場所に持ち込まれることを指し、侵入とは外来種自身が定着域から自力で移動・分散することにより分布域を拡大することを指すものとした。また、農林水産業等の生業での利用、または研究・展示・教育等を目的とした飼育・増養殖・栽培・植栽、個人の楽しみのための飼育・栽培など、人の管理下におかれた外来種についても、その実態に鑑みて、意図的な放逐・遺棄の実績があるものや、非意図的な逸出・散逸が想定されるものは選定・検討の対象とした。なお、外来種の導入の時期に関しては、原則として明治時代以降に本県に導入された外来種を選定対象とし、それに加えて、江戸時代以前に導入されたものであっても、有史以後の導入由来であることが明らかな外来種も一部、含めることとした。また、植物で数多く認識されている「史前帰化」した種は、選定から除外した。

このようにして評価の対象となった外来種は、野外での定着状況と影響の程度という2つの視点に基づいたカテゴリー評価を行った。なお、この2つの視点に基づいてカテゴリー分けをする考え方は、昨年公表された国の「我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト(生態系被害防止外来種リスト)」でも採用されている。

(3) リストの改訂

外来種の状況は時々刻々と変化するため、滋賀県外来種リストの内容についても、随時変更していく必要がある。このたび、県内で新たに確認された外来種があることに加え、特定外来生物の新規指定が相次いだこと、それに伴い滋賀県指定外来種の指定が3種類について解除されたこと、ヒアリに代表される侵略性の高い外来種が新たに侵入を警戒すべき状況になったこと、カテゴリー評価を変更することが望ましい外来種が出てきたことなどから、「滋賀県野生動植物との共生に関する検討会」をはじめとする専門家の助言を得ながら、「滋賀県外来種リスト」を更新することとした。

2. 外来種のカテゴリー区分

(1) カテゴリー区分の考え方

滋賀県外来種リストにおけるカテゴリー区分は、以下の2つの視点に基づいて評価した。

<視点1> 本県における侵入・定着の段階

定着した段階：定着が確認されている。

未定着の段階：定着が確認されていない。しかし、捕獲・目撃等の記録があるか、導入または侵入するおそれがある。

<視点2> 報告された、または予測される、本県における影響の程度

程度は大きい：影響は強い。

程度は中程度：ある程度の影響が認められる、または影響の程度は不明である。

程度は小さい：影響は認められない、またはあるとしても極めて小さい。

なお、視点2において評価に用いる影響の種類としては、表1に示す10の項目を想定し、原則として、これらのうち影響の程度が最も強い項目の評価に基づいて、当該種のカテゴリーを評価した。

表1. 外来種の影響を評価するための10項目.

影響の項目	影響の程度が強い	影響の程度が中程度
① 上位捕食者としての影響	在来種の同所個体群の存続を脅かす。希少野生動植物種の同所個体群に深刻な影響を与える。	在来種の同所個体群に影響を与える。希少野生動植物種を捕食する。
② 植生などへの影響	自然植生を大きく変化させる。	自然植生を構成する植物種に影響を与える。
③ 競合・駆逐の可能性	在来種を競合により駆逐する。希少野生動植物種に競合による深刻な影響を与える。	在来種の同所個体群に競合による影響を与える。希少野生動植物種と資源面で競合。
④ 交雑による遺伝的攪乱	在来種と交雑する。	同属または近縁で交雑可能な在来種が存在する。
⑤ 病気・寄生虫の媒介	在来種に感染し悪影響を及ぼす病原生物を媒介する。	在来種に感染する可能性のある病原生物を媒介する。
⑥ 農林水産業などへの影響	農林水産業に対し、生産額の減少や労働量の増加など、顕著な悪影響を与える。	農林水産業の対象種に対して影響を与える。
⑦ 人の健康への影響	人に病気を媒介したり怪我を負わせたりする。	人に対する病気の媒介や傷害を与える可能性がある。
⑧ 景観への影響	景観を著しく変化させる。	景観を構成する植物種に影響を与える。
⑨ 民家などへの侵入	重要な文化財建築に被害を及ぼす。民家に侵入し経済的・健康上の被害を及ぼす。	民家など建築物に侵入する可能性がある。
⑩ 堤防、土手に穴を掘る影響	堤防・土手・畔などに穴を開けることで、治水や農業に対して悪影響を与える。	堤防・土手・畔などに穴を開ける可能性がある。

(2) 選定種のカテゴリー区分

滋賀県外来種リストでは、視点1に基き、野外で定着が確認された外来種については、視点2にしたがって、影響の程度が強いものを「強影響外来種」、十分な影響が想定されるものを「中影響外来種」、影響が軽微であるか確認されていないものを「一般外来種」として、3つのカテゴリーに分けることとした。

次に、視点1により野外で未定着であるが侵入あるいは導入のおそれが高いとされる外来種のうち、視点2にしたがって影響が想定され警戒が必要なものを「侵入警戒外来種」に、野外で捕獲・目撃の例があるが警戒すべき影響は想定されないもののうち、普及啓発的観点から記録に残す必要があると考えられるものを「確認記録外来種」に分けることとした。

表2. 「滋賀県外来種リスト」におけるカテゴリー区分.

		視点1 (県内での定着状況)	
		県内に定着している	県内に未定着または定着未確認
視点2 (影響の 程度)	影響：大	強影響外来種	侵入警戒外来種
	影響：中	中影響外来種	
	影響：小	一般外来種	確認記録外来種

滋賀県外来種リストのカテゴリー区分と、国による生態系被害防止外来種リストのカテゴリー区分を表3で比較した。両者で異なる点としては、滋賀県外来種リストでは、生態系等への影響が想定されない「一般外来種」と「確認記録外来種」のカテゴリーを設けたことと、国内に未侵入であり国境線で侵入を防止する必要のある種（「侵入予防外来種」）までは選択の対象としなかったこと、また産業利用上の管理に対策を委ねた「産業管理外来種」の枠組みを設けなかったことが挙げられる。また、環境省と農林水産省が発行した国のリストでは、農業害虫とされる外来種は原則として含まない方針であるのに対して、滋賀県外来種リストでは、農業害虫についてもリストに含めることとした。

なお、本リストへの選定は、対象によっては種より上位の「属」や「種群」などの分類単位で行われる場合があることから、数量表記や計数の単位としては、そのような複数種で構成される分類単位を含まず種のみを扱う場合には「種」を、複数種で構成される分類単位を含めて扱う場合には「種類」を用いる。

表3. 国の「生態系被害防止外来種リスト」のカテゴリー区分（太枠で囲われた部分）と「滋賀県外来種リスト」のカテゴリー区分（長方形で囲われたもの）.

			定着状況による区分 (視点1)				産業管理 外来種 (産業 利用に おいて 適切な 管理が 必要)
			総合対策外来種 (定着済みの種が対象)		定着予防外来種 (未定着の種が対象)		
影響の 程度 (視点1)	影響が 大きい	対策可能	緊急対策外来種	強影響 外来種	国内に侵入は している	国内に 未侵入	
		対策要検討			重点対策外来種	その他 の定着 予防 外来種	
	影響が中程度		その他の 総合対策外来種	中影響 外来種			
	影響が小さい (リスト対象外)		一般 外来種		確認記録 外来種		

3. 滋賀県外来種リスト 2019

(1) 概要

「滋賀県外来種リスト」では、哺乳類、鳥類、爬虫類、両生類、魚類、昆虫類、クモ類、甲殻類、貝類、その他の水生無脊椎動物、藍藻類、車軸藻類、シダ植物、裸子植物、被子植物双子葉類、同単子葉類の16の生物群ごとに、外来種の選定とカテゴリー評価に関する検討を行った。その結果、滋賀県外来種リストには合わせて808種類が選定され、そのうち植物が575種、動物が233種類となり、植物の種数が動物の種数の約2.5倍に達した(表4)。なお、生物群別にみると、選定種が多いものとしては、多い順に双子葉類446種、単子葉類118種、昆虫類85種類、魚類52種類、貝類25種類、甲殻類20種類、哺乳類14種、爬虫類10種類、鳥類10種であった。

表4. 「滋賀県外来種リスト2019」における選定結果の概要.

生物群	県内に定着済みの外来種				県内未定着の外来種		合計
	強影響外来種	中影響外来種	一般外来種	定着種計	侵入警戒外来種	確認記録外来種	
哺乳類	3種	2種	5種	10種	3種	1種	14種
鳥類	1種	2種	2種	5種	3種	2種	10種
爬虫類	1種	0種	3種	4種	4種類	2種	10種類
両生類	2種	0種	0種	2種	2種	0種	4種
魚類	6種	14種	6種	26種	7種類	19種	52種類
昆虫類	20種	20種	36種	76種	9種類	0種	85種類
クモ類	2種	1種	1種	4種	2種	1種	7種
甲殻類	3種類	3種	10種	16種類	4種類	0種	20種類
貝類	3種	4種類	12種	19種類	4種	2種	25種類
その他無脊椎動物	0種	6種	0種	6種	0種	0種	6種
動物計	41種	52種類	75種	168種類	38種類	27種	233種類
ラン藻類	0種	0種	2種	2種	0種	0種	2種
車軸藻類	0種	0種	0種	0種	0種	1種	1種
シダ植物	1種	1種	5種	7種	0種	0種	7種
裸子植物	0種	0種	1種	1種	0種	0種	1種
被子植物双子葉類	11種	37種	395種	443種	3種	0種	446種
被子植物単子葉類	5種	12種	100種	117種	1種	0種	118種
植物計	17種	50種	503種	570種	4種	1種	575種
合計	58種	102種類	578種	738種類	42種類	28種	808種類

選定された外来種を、視点1に照らしてみると、滋賀県内に定着している外来種は738種類、未定着ながら警戒もしくは記録すべき種として70種類であった。このうち、後者の種類数は動物が65種類なのに対し、植物が5種と、動物できわめて高い値を示す結果となった。このことは、動物において、侵入・定

着が警戒される対象として認識される外来種が多いことと、琵琶湖等で確認された飼育者の遺棄に由来すると考えられる外来種が多いことを反映していると考えられる。

視点2についてみると、影響の程度が強い「強影響外来種」と、十分な影響が想定される「中影響外来種」は、動物でそれぞれ41種、52種類、植物で17種、50種と、どちらも動物の方が種類数が多く選定される結果となった。

(2) 特定外来生物・指定外来種の選定状況

国の外来生物法が規定する特定外来生物と、県の野生動植物共生条例が規定する指定外来種の選定状況を表5に示す。特定外来生物は計41種類、指定外来種は計13種類が選定された。

表5. 特定外来生物と指定外来種の選定状況.

(「特」：特定外来生物の種数、「指」：指定外来種の種数、◎特定外来生物、●指定外来種)

生物群	県内に定着済みの外来種				県内未定着の外来種		合計
	強影響外来種	中影響外来種	一般外来種	定着種計	侵入警戒外来種	確認記録外来種	
哺乳類	◎ライオン ◎ネオトリア ●ヒビシ			特2指1	◎ヒキイライオン ◎タイリス ◎タイリス		特5指1
鳥類	◎カウジョウ			特1	◎カウジョウ		特2
爬虫類					◎カミヤガ ●ノコガ		特1指1
両生類	◎ウシガエル			特1			特1
魚類	◎オオクチナ ◎コクチナ ●ヌリクサナゴ ◎チャネキョウフィッシュ ◎カレキレ	◎カサシ ●カサシ		特5指2	◎オオナゴ ◎カサシ類 ●カサシ ◎コクチナ ●カサシ類 ●カサシ類 ◎カサシ類 ◎カサシ類		特9指5
昆虫類					◎カサシ ◎カサシ ◎カサシ ◎カサシ ◎カサシ ◎カサシ		特6
クモ類	◎ヒキガサ			特1	◎カサシ ◎カサシ		特3
甲殻類	●カサシ	◎カサシ /カサシ		特1指1	●カサシ		特1指2
貝類	◎カサシ ●カサシ ●カサシ			特1指2			特1指2
動物計	特10指5	特2指1		特12指6	特17指5		特29指11
シダ植物	◎カサシ			特1			特1
種子植物 双子葉類	◎カサシ ●カサシ ◎カサシ ◎カサシ ◎カサシ ◎カサシ ●カサシ	◎カサシ ◎カサシ ◎カサシ	◎カサシ	特9指2	◎カサシ		特10指2
種子植物					◎カサシ		特1
植物計	特6指2	特3	特1	特10指2	特2		特12指2
合計	特16指7	特5指1	特1	特22指8	特19指5		特41指13

視点1についてみると、リストに掲載された特定外来生物41種のうち、県内に定着が確認されている特定外来生物は動物12種、植物10種の計22種、県内で定着していないが導入・侵入が警戒されるものとして動物17種、植物2種が選定された。一方、指定外来種は13種類すべてがリストに掲載され、定着済みのものが動物6種、植物2種、未定着のものが動物5種類であった。

視点2についてみると、定着済みの特定外来生物・指定外来種のうち、その多くが「強影響外来種」と評価されたが、特定外来生物の動物2種と植物3種、指定外来種の動物1種が「中影響外来種」に、特定外来生物の植物1種が「一般外来種」と評価された。

(3) 国内外来種の選定状況

「滋賀県外来種リスト」には、国内の他地域にもともと自然分布していたものが、滋賀県内に導入・侵入したことで定着した「国内外来種」が含まれており、その選定状況を表6に示す。定着済みの外来種として動物14種、植物9種の、計23種が選定された。

表6. 国内外来種の選定状況.

生物群	県内に定着済みの外来種				県内未定着の外来種		合計
	強影響外来種	中影響外来種	一般外来種	定着種計	侵入警戒外来種	確認記録外来種	
魚類	イトヨ	オヤニラミ サツキマス タウナギ ヌマチチブ ミナミメダカ	ゲンゴロウブナ ツチフキ ワカサギ	9種		クルメサヨリ サケ スズキ ボラ	13種
クモ類				0種		アマミサソリモドキ	1種
甲殻類		ミナミスマエビ(県外産個体群)		1種			1種
貝類			ウスイロオカチグサ クルマヒラマキガイ コハクオナジマイマイ ヌノメカワニナ レンズヒラマキガイ ヒダリマキマイマイ	6種			6種
無脊椎動物		エビヤドリツノムシ (県外産個体群)		1種			1種
動物計	1種	7種	9種	17種	0種	5種	22種
シダ植物			イヌケホシダ	1種			1種
種子植物 双子葉類			アオモジ アズマギク ニッケイ ハマヒサカキ ヒメシャラ マサキ マルバシヤリンバイ	7種			7種
単子葉類			シラタマホシクサ	1種			1種
植物計	0種	0種	9種	9種	0種	0種	9種
合計	1種	7種	18種	26種	0種	5種	31種

動物は22種が国内外来種とされ、そのうちアマミサソリモドキ、コハクオナジマイマイ、ヒダリマキマイマイ以外の19種が水生の外来種であり、イトヨが強影響外来種と評価された。植物は9種が国内外来種とされ、植栽されたものが野生化したものと湿原植物が意図的に移植された事例が含まれていた。

(4) 滋賀県外来種リスト 選定種一覧(別表1)

滋賀県外来種リストに選定された計808種類を、生物群ごとに分けて、カテゴリ別に以下に記す。

滋賀県外来種リスト2019

【凡例】

「指定」欄は法令による規制状況を示します。◎は特定外来生物(外来生物法)、●は指定外来種(共生条例)に指定されているものです。

「国内」欄は国内外来種であるものに◆を付けていますが、当該種が国外にも分布する場合、県内個体が国外起源である可能性のあるものも含まれます。

「外来種名(標準和名等)」欄には、別名や総称、流通名なども含めるようにしています。

「生態系被害防止外来種リストのカテゴリー」欄は、〈緊急対策〉は緊急対策外来種、〈重点対策〉は重点対策外来種、〈総合対策〉はその他の総合対策外来種、〈侵入防止〉は侵入防止外来種、〈定着防止〉はその他の定着防止外来種、〈産業管理〉は産業管理外来種を示します。

「備考」欄は、新規追加やカテゴリー変更などを示し、※を付けたものは2015年版から外来種名欄に変更があったものです。

分類群ごとに、名称の後のカッコ内に、定着済みカテゴリー(強影響外来種、中影響外来種、一般外来種)の合計種数と、定着が確認されていない外来種のカテゴリー(侵入警戒外来種と確認記録外来種)の合計種数とを記しました。

哺乳類(10種+4種)

指 国 定 内	外来種名(標準和名等)	生態系被害防止外来種リ ストのカテゴリー	備考(2015年版からの変 更など)
強影響外来種(3種)			
◎	アライグマ	〈緊急対策〉	
◎	ヌートリア(沼狸しょうり、陸獺おかおそ)	〈緊急対策〉	※
●	ハクビシン	〈重点対策〉	
中影響外来種(2種)			
	シマリス(チョウセンシマリス)	〈緊急対策〉	
	チョウセンイタチ(シベリアイタチ)		
一般外来種(5種)			
	イエヌ(ノヌ)	〈重点対策〉	
	イエネコ(ノネコ)	〈緊急対策〉	
	クマネズミ	〈重点対策〉	
	ドブネズミ	〈重点対策〉	
	ハツカネズミ	〈重点対策〉	
侵入警戒外来種(3種)			
◎	カニクイアライグマ	〈定着予防〉	
◎	クリハラリス(タイワンリス)	〈緊急対策〉	
◎	タイワンザル	〈緊急対策〉	
確認記録外来種(1種)			
	イノブタ	〈重点対策〉	

鳥類(5種+5種)

指 国 定 内	外来種名(標準和名等)	生態系被害防止外来種リ ストのカテゴリー	備考(2015年版からの変 更など)
強影響外来種(1種)			
◎	ソウシチョウ	〈重点対策〉	
中影響外来種(2種)			
	カラバト(トバト)		※
	マガモ(アヒル、アイガモ)		
一般外来種(2種)			
	コジュケイ		
	ハッカチョウ		
侵入警戒外来種(3種)			
	外国産メジロ	〈定着予防〉	

◎	ガビチョウ	〈重点対策〉	
	クロエリセイタカシギ	〈総合対策〉	セイタカシギから変更

確認記録外来種(2種)

	コブハクチョウ	〈総合対策〉	
	ベニスズメ		

爬虫類(4種+6種類)

指 国 定 内	外来種名(標準和名等)	生態系被害防止外来種リ ストのカテゴリー	備考(2015年版からの変 更など)
------------	-------------	-------------------------	-----------------------

強影響外来種(1種)

	ミシシッピアカミミガメ(アカミミガメ、ミドリガメ(幼体))	〈緊急対策〉	
--	-------------------------------	--------	--

一般外来種(3種)

	クサガメ		
	シロイシガメ(ミナミイシガメ)		
	ニホンヤモリ		

侵入警戒外来種(4種類)

	アメリカスッポン属	〈定着予防〉	
◎	カミツキガメ(コモンスナッパー)	〈緊急対策〉	※
	リバークーター	〈定着予防:クーターガメ類〉	
●	ワニガメ	〈定着予防〉	

確認記録外来種(2種)

	ホンジュラスミルクヘビ		
	マタマタ		

両生類(2種+2種)

指 国 定 内	外来種名(標準和名等)	生態系被害防止外来種リ ストのカテゴリー	備考(2015年版からの変 更など)
------------	-------------	-------------------------	-----------------------

強影響外来種(2種)

◎	ウンガエル(食用ガエル)	〈重点対策〉	
	チュウゴクオオサンショウウオとオオサンショウウオの交雑個 体		

侵入警戒外来種(2種)

	アフリカツメガエル(ゼノパス、クセノパス)	〈総合対策〉	※
	チュウゴクオオサンショウウオ	〈重点対策〉	

魚類(26種+26種類)

指 国 定 内	外来種名(標準和名等)	生態系被害防止外来種リ ストのカテゴリー	備考(2015年版からの変 更など)
------------	-------------	-------------------------	-----------------------

強影響外来種(6種)

◆	イトヨ		
◎	オオクチバス(フロリダバスを含む、総称ブラックバス)	〈緊急対策〉	
◎	コクチバス(総称ブラックバス)	〈緊急対策〉	
●	タイリクバラタナゴ(オカメ)	〈重点対策〉	※
◎	チャネルキャットフィッシュ(アメリカナマス)	〈緊急対策〉	
◎	ブルーギル	〈緊急対策〉	

中影響外来種(14種)

	アオウオ	〈総合対策〉	
◆	アマゴ(サツキマス)		
● ◆	オヤニラミ	〈総合対策:近畿以東のオヤ ニラミ〉	
	外国産ドジョウ		
◎	カダヤシ(タツミノ)	〈重点対策〉	

カムルチー(ライギョ・総称、タイワンドジョウ・混称)		※
カラドジョウ	〈総合対策〉	
コイ(養殖型、ヤマトゴイ)		
ソウギョ	〈総合対策〉	
◆ タウナギ		
ニジマス(レインボートラウト)	〈産業管理〉	※
◆ ヌマチチブ		
ハクレン(総称レンギョ、レンヒー)	〈総合対策〉	※
◆ ミナメダカ[ヒメダカを含む](総称メダカ)		※

一般外来種(6種)

キンギョ		
◆ ゲンゴロウブナ(ヘラブナ、カワチブナ)		
ジルティラピア	〈総合対策〉	
◆ ツチフキ		
ナイルティラピア(ティラピア・総称、チカダイ、イズミダイ)	〈総合対策〉	※
◆ ワカサギ		

侵入警戒外来種(7種類)

◎ オオタナゴ	〈総合対策〉	県指定外来種から特定外来生物へ
◎ ガー科[アリゲーターガー、ショートノーズガー、スポットテッドガー、ロングノーズガー](総称ガーパイク、ガー)	〈定着予防〉	県指定外来種から特定外来生物へ
● カワマス(ブルックトラウト)	〈総合対策〉	※
◎ コウライギギ	〈総合対策〉	新規追加
● ピラニア類(ピラニアナツテレイ)		※
● ブラウントラウト(ブラウンマス)	〈産業管理〉	※
◎ ヨーロッパナマズ(ヨーロッパオオナマズ)	〈定着予防〉	県指定外来種から特定外来生物へ

確認記録外来種(19種)

アストロノートゥス・オケラトウス		
オキシドラス		
グッピー		
◆ クルメサヨリ		
コロソマの一種		
◆ サケ(シロザケ)		※
シルバーアロワナ		
◆ スズキ		
セイルフィンプレコ		
チョウザメの一種		
ティラピア・ブッティコフェリイ		
テンチ		中影響外来種から変更
ナイフフィッシュの一種		
ノーザンバラムンディ		
ブラックテトラ		
プレコストムスの一種		
◆ ボラ		
ラッド		中影響外来種から変更
レッドテールキャットフィッシュ		

昆虫類(76種+9種類)

指 国 定 内	外来種名(標準和名等)	生態系被害防止外来種リ ストのカテゴリー	備考(2015年版からの変 更など)
強影響外来種(20種)			
	アワダチソウゲンバイ		
	イチジクヒトリモドキ		
	イネミズゾウムシ		
	オオタバコガ		
	オンシツコナジラミ		
	カキクダアザミウマ		
	カツラマルカイガラムシ		
	クスベニヒラタカスミカメ		

クリタマバチ	
ジャガイモガ(ジャガイモキバガ)	※
タバコナジラミ(バイオタイプB、バイオタイプQ)	
トマトハモグリバエ	
ネギアザミウマ	
マメハモグリバエ	
マンゴーカタカイガラムシ	
ミカンキイロアザミウマ	
ミナミアオカメムシ	
ミナミキイロアザミウマ	
ヤサイゾウムシ	
ヤノネカイガラムシ	

中影響外来種(20種)

アオマツムシ	
アメリカジガバチ	
アメリカシロヒトリ	一般外来種から変更
アルファルファタコゾウムシ	
オオタコゾウムシ	
キマダラカメムシ	
クロマダラソテツシジミ	
シバオサゾウムシ	
シバツトガ	新規追加
セイタカアワダチソウヒゲナガアブラムシ	
タケクマバチ	
トガリアメンボ	
ナシヒメシンクイ	
ヒロヘリアオイラガ	
ブタクサハムシ	
プラタナスグンバイ	
ヘクソカズラグンバイ	
ホソオチョウ(ホソオアゲハ)	〈重点対策〉 ※
ミカントゲコナジラミ	
ヨコヅナサシガメ	一般外来種から変更

一般外来種(36種)

アカウキクサゾウムシ	
アカクビホシカムシ	
アカハネオンブバッタ	
アトグロホソアリモドキ	
アメリカアカヘリタマムシ	
アメリカミズアブ	
イマイツツハナバチ	
ウスグモスズ	
エンドウゾウムシ	
カシノシマメイガ	
カドマルカツオブシムシ	
クモガタテントウ	
クロゴキブリ	
コクマルハキバガ	
コメシマメイガ(コメノシマメイガ)	
コルリアトキリゴミムシ	
シラホシヒメカツオブシムシ	
スジマダラメイガ	
セイヨウシミ	
セイヨウミツバチ	
タネクサコバンゾウムシ	
タバコシバンムシ	
チビタケナガシンクイ	
ツシمامナクボカミキリ	
ツヅリガ	
ツマアカオオヒメテントウ	
テツイロヒメカミキリ	
ナガヒョウホンムシ	
ノシメマダラメイガ	

ヒラタキクイムシ
ベダリアテントウ
ホホビロホソヒラタムシ
ミスジキイロテントウ
ラミーカミキリ
ワタミヒゲナガゾウムシ
ワモンゴキブリ

侵入警戒外来種(9種類)

◎	アカカミアリ(ネッタイヒアリ)	〈緊急対策〉	新規追加
◎	アルゼンチンアリ	〈緊急対策〉	
	外国産カブトムシ	〈定着予防〉	
	外国産クワガタムシ	〈定着予防〉	
◎	クビアカツヤカミキリ(クロジャコウカミキリ、アロミア・ブンギ)	〈重点対策〉	新規追加
◎	セイヨウオオマルハナバチ(ツチマルハナバチ)	〈産業管理〉	
◎	ツマアカスズメバチ	〈緊急対策〉	新規追加
◎	ヒアリ(アカヒアリ)	〈侵入予防〉	新規追加
	フェモラーモモブトハムシ	〈重点対策〉	

クモ類(4種+3種)

指 国 定 内	外来種名(標準和名等)	生態系被害防止外来種リ ストのカテゴリー	備考(2015年版からの変 更など)
強影響外来種(2種)			
◎	セアカゴケグモ トマトサビダニ	〈緊急対策〉	
中影響外来種(1種)			
	クロガケジグモ		
一般外来種(1種)			
	マダラヒメグモ		
侵入警戒外来種(2種)			
◎	クロゴケグモ	〈緊急対策〉	
◎	ハイイロゴケグモ	〈緊急対策〉	
確認記録外来種(1種)			
◆	アマミサソリモドキ		中影響外来種から変更

甲殻類及びその他節足動物(16種類+4種類)

指 国 定 内	外来種名(標準和名等)	生態系被害防止外来種リ ストのカテゴリー	備考(2015年版からの変 更など)
強影響外来種(3種類)			
	カワリヌマエビ属(ミナミヌマエビの滋賀県個体群を除く) シナヌマエビ		
●	フロリダマミズヨコエビ	〈総合対策〉	
中影響外来種(3種)			
	アメリカザリガニ(マッカチン、エビガニ)	〈緊急対策〉	※
◎	ウチダザリガニ/タンカイザリガニ(シグナルザリガニ、レイク ロブスター)	〈緊急対策〉	※
◆	ミナミヌマエビ(県外産個体群)		
一般外来種(10種)			
	アジアカブトエビ		
	アメリカカブトエビ		
	オオビワミジンコ(プリカリアミジンコ、ダフニア・プリカリア)		
	オカダンゴムシ		
	クマワラジムシ		
	ナガワラジムシ		

ハナダカダンゴムシ
ホソワラジウムシ
ヨーロッパカブトエビ
ワラジウムシ

侵入警戒外来種(4種類)

●	オオミジンコ(ダフニア・マグナ)		
	外国産スジエビ		新規追加
	ミステリークレイフィッシュ(マーモクレプス、ミステリーザリガニ)	〈定着予防〉	新規追加
	ヤンバルトサカヤステ		新規追加

貝類(19種類+5種)

指 国 定 内	外来種名(標準和名等)	生態系被害防止外来種リ ストのカテゴリー	備考(2015年版からの変 更など)
------------	-------------	-------------------------	-----------------------

強影響外来種(3種)

◎	カワヒバリガイ	〈緊急対策:カワヒバリガイ属〉	
●	コモチカワツボ(ニホンカワツボ、ジェンキンスカワツボ)	〈総合対策〉	※
●	スクミリンゴガイ(ゴールデンアップルスネイル、ジャンボタニシ・総称)	〈重点対策〉	

中影響外来種(4種類)

	タイワンシジミ種群	〈総合対策〉	
	チャコウラナメクジ種群		
	ハブタエモノアラガイ	〈総合対策〉	
	ヒレイケチョウガイ		

一般外来種(12種)

◆	ウスイロオカチグサ		
	オナジマイマイ		
◆	クルマヒラマキガイ(レンズヒラマキガイ)		※
	コンタカヒメモノアラガイ		
◆	コハクオナジマイマイ		新規追加
	コハクガイ		
	サカマキガイ		
	トクサオカチョウジガイ		
◆	ヌノメカワニナ		
	ノハラシノシタ		
◆	ヒダリマキマイマイ		
	ヒロマキミズマイマイ		

侵入警戒外来種(3種)

	オオクビキレガイ	〈総合対策〉	
	ヒメリンゴマイマイ(プチグリ)	〈総合対策〉	
	マダラコウラナメクジ	〈総合対策〉	新規追加
	ラプラタリンゴガイ(ジャンボタニシ・総称)	〈重点対策〉	新規追加

確認記録外来種(2種)

	アシヒダナメクジの一種		
	インドヒラマキガイ		

その他の無脊椎動物(6種)

指 国 定 内	外来種名(標準和名等)	生態系被害防止外来種リ ストのカテゴリー	備考(2015年版からの変 更など)
------------	-------------	-------------------------	-----------------------

中影響外来種(6種)

	アメリカナミウズムシ		
◆	エビヤドリツノムシ(県外産個体群)		
	オオマリコケムシ(クラゲコケムシ)		
	コガタウズムシ		
	トウナンアジアウズムシ		

藍藻類 (2種)

指 国 定 内	外来種名(標準和名等)	生態系被害防止外来種リ ストのカテゴリー	備考(2015年版からの変 更など)
一般外来種(2種)			
	アフアニゾメノン・フロスアクアエ		
	オシラトリア・カワムラエ		

車軸藻類(1種)

指 国 定 内	外来種名(標準和名等)	生態系被害防止外来種リ ストのカテゴリー	備考(2015年版からの変 更など)
確認記録外来種(1種)			
	セレナスツルム・カブリコルヌツム		

シダ植物 (7種)

指 国 定 内	外来種名(標準和名等)	生態系被害防止外来種リ ストのカテゴリー	備考(2015年版からの変 更など)
強影響外来種(1種)			
◎	アゾラ・クリスタタ/アゾラ・クリスタータ(アメリカオオアカウキクサ)	〈緊急対策:外来アゾラ類〉	※
中影響外来種(1種)			
	アカウキクサ属の雑種(アゾラ)	〈緊急対策:外来アゾラ類〉	
一般外来種(5種)			
	イヌカタヒバ		
◆	イヌケホシダ		
	オオサンショウモ	〈重点対策〉	
	コンテリク라마ゴケ(レインボーファーン)	〈総合対策〉	
	ホウライシダ		

裸子植物 (1種)

指 国 定 内	外来種名(標準和名等)	生態系被害防止外来種リ ストのカテゴリー	備考(2015年版からの変 更など)
一般外来種(1種)			
	ヌマスギ(ラクウショウ)		

被子植物・双子葉類 (443種+3種)

指 国 定 内	外来種名(標準和名等)	生態系被害防止外来種リ ストのカテゴリー	備考(2015年版からの変 更など)
強影響外来種(11種)			
	アメリカネナシカズラ		
◎	アレチウリ	〈緊急対策〉	
	イタチハギ(クロバナエンジュ)	〈重点対策〉	
●	イチビ		
◎	ウスゲオオバナミズキンバイ(通称としてオオバナミズキンバイ)	〈緊急対策:(オオバナミズキンバイなどを含むルドウィギア・グランディフロラ)〉	
	エゾノギシギシ(ヒロハギシギシ)	〈総合対策〉	
◎	オオフサモ(パロットフェザー)	〈緊急対策〉	
◎	ナガエツルノゲイトウ	〈緊急対策〉	
◎	ミズヒマワリ	〈緊急対策〉	
	メリケンムグラ		
●	ワルナスビ		
中影響外来種(37種)			
	アメリカイヌホオズキ		

アメリカチョウセンアサガオ(ケチョウセンアサガオ)	〈総合対策:チョウセンアサガオ属〉	
アレチヌスビトハギ	〈総合対策〉	
イヌホオズキ		
ウチワサボテン	〈重点対策:ウチワサボテン属〉	一般外来種から変更
ウチワゼニクサ(ウチワゼニグサ、タテバチドメグサ)	〈重点対策〉	新規追加
オオイヌホオズキ		
◎ オオカワヂシャ	〈緊急対策〉	一般外来種から変更
◎ オオキンケイギク	〈緊急対策〉	
キダチコマツナギ(トウコマツナギ)		
コセンダングサ		
ジャクチリソバ(シュッコソバ、ヒマラヤソバ)	〈総合対策〉	
シロバナチョウセンアサガオ(シロバナヨウシュチョウセンアサガオ)	〈総合対策:チョウセンアサガオ属〉	
セイタカアワダチソウ(セイタカアキノキリンソウ)	〈重点対策〉	
セイヨウカラシナ(カラシナ)	〈総合対策〉	
ダンドボロギク		
ツルドクダミ(カシュウ)	〈総合対策〉	
ツルニチニチソウ	〈重点対策〉	
テリミノイヌホオズキ		
ドクニンジン	〈総合対策〉	
トゲヂシャ		一般外来種から変更
トマトダマシ		
ナガバギシギシ(チヂミスイバ)	〈総合対策〉	
◎ ナルトサワギク	〈緊急対策〉	侵入警戒外来種から変更
ナンバンカラムシ		
ニワウルシ(シンジュ)	〈重点対策〉	
ハゴロモモ(フサジュンサイ、カボンバ)	〈重点対策〉	
ハリエンジュ(ニセアカシヤ)	〈産業管理〉	
ヒサウチソウ		
ヒレタゴボウ(アメリカミズキンバイ)		
ブタクサ		
ベニバナボロギク		
マルバルコウ		
メマツヨイグサ		
メリケントキンソウ		一般外来種から変更
ヨウシュチョウセンアサガオ(ムラサキチョウセンアサガオ)	〈総合対策:チョウセンアサガオ属〉	
ヨウシュヤマゴボウ(アメリカヤマゴボウ)		

一般外来種(395種)

395種

アイ(タデアイ、アイタデ)		
アイノコセンダングサ		
アオギリ		
アオゲイトウ		
アオビユ(ホナガイヌビユ)		
◆ アオモジ(ショウガノキ)		
アカザ		
アカミタンポポ	〈重点対策:外来性タンポポ種群〉	
アカンサス(ハアザミ)		
アコウゲンバイ		
アサガオ		
◆ アズマギク		
アツミゲシ	〈総合対策〉	
アブラギリ		
アマ		
アメリカアサガオ		
アメリカアゼナ		
アメリカアリタソウ		
アメリカオニアザミ	〈総合対策〉	
アメリカキカシグサ		
アメリカキンゴジカ		
アメリカセンダングサ(セイタカウコギ)	〈総合対策〉	
アメリカタカサブロウ(タカサブロウ外来型)		

アメリカヌスビトハギ(ヒメヌスビトハギ)	
アメリカフウロ	
アラゲハンゴンソウ(キヌガサギク、ルドベキア・ヒルタ、グロリオサ・デージー)	〈総合対策〉
アリタソウ	
アレチギシギシ	
アレチニシキソウ	
アレチノギク	
アレチハナガサ	〈総合対策:アレチハナガサ類(アレチハナガサ、ダキバアレチハナガサ、ヤナギハナガサ(サンジャクバーベナ)、ヒメクマツヅラ(ハマクマツヅラ)〉
アレチマツヨイグサ	
アレチモウズイカ(ホザキモウズイカ)	
アワユキセンダングサ	
イガオナモミ	
イトツメクサ	
イトバドクゼリモドキ	
イヌカキネガラシ	
イヌカミツレ	
イヌキクイモ	
イヌコハコバ	
イヌコモチナデシコ	
イヌハッカ(チクマハッカ)	
イヌビユ	
イヌムラサキ	
イブキノエンドウ	
イボミキンボウゲ	
イモカタバミ(フシネハナカタバミ)	
イリノイヌスビトハギ	
イワヨモギ	
ウサギアオイ(ヒメハイアオイ)	
ウスベニチチコグサ(タチチチコグサモドキ)	
ウマゴヤシ	
ウラジロアカザ	
ウラジロチチコグサ	
ウラジロハコヤナギ	
ウンリュウヤナギ	
エゾスズシロモドキ	
エゾノミツモトソウ	
エニシダ(エニスダ)	〈総合対策〉
エビスグサ	
オオアラセイトウ(ショカツサイ、ショカツサイ、ハナダイコン、ムラサキハナナ)	
オオアレチノギク	
オオアワダチソウ	〈重点対策〉
オオイヌノフグリ	
オオオナモミ	〈総合対策〉
オオキバナカタバミ(オオバナキカタバミ、キイロハナカタバミ)	〈総合対策〉
オオセンナリ	
オオツメクサ	
オオニシキソウ	
オオバアメリカアサガオ	
オオバナイトタヌキモ(ウトリクラリア・ギツバ)	〈重点対策〉
◎ オオハンゴンソウ	〈緊急対策〉
オオブタクサ(クワモドキ)	〈重点対策〉
オオフタバムグラ	〈総合対策〉
オオベニタデ(オオケタデ)	
オオヘビイチゴ(タチロウゲ)	
オオホウキギク	
オオマツヨイグサ	
オカタイトゴメ	
オキジムシロ	

オクシモハギ	
オシロイバナ	
オダマキ	
オッタチカタバミ	
オトメフウロ	
オニノゲシ	
オニマツヨイグサ	
オランダガラシ(クレソン)	〈重点対策〉
オランダハッカ	
オランダフウロ	
オランダミミナグサ(アオミミナグサ)	
オロシャギク(オオヒレアザミ)	
カイリョウボプラ	
カキネガラシ	
ガクアジサイ	
カザンデマリ	
カスミソウ	
カミツレ	
カミツレモドキ	
カラクサナズナ	
カロライナボブラ	
キウイフルーツ(キウイ、シナサルナシ)	
キキョウソウ	
クイモ	
ククザキリュウキンカ	
ククタニギク(アワコガネギク)	
ククノハアオイ	
キササゲ	
キダチコンギク	
キヌイトツメクサ	
キヌゲチチコグサ	
キバナコスモス	
キバナセンニチコウ	
キバナノマツバニンジン	
キバナノレンリソウ	
キョウチクトウ	
キリ	
キレハイスガラシ	
キレハヒメオドリコソウ	
キンゴジカ	
キンシバイ	
ギンセンカ	
クジラグサ	
クスダマツメクサ	
クソニンジン	
クルマバザクロソウ	
クロタネソウ	
クロミキイチゴ	
グンバイナズナ	
ケアリタソウ	
ケイヌホオズキ	
ゲツケイジュ	
ケツメクサ(ヒメマツバボタン、ケツメグサ)	〈重点対策〉
ケナシヒメムカシヨモギ(ケナシムカシヨモギ)	〈総合対策〉
ゲンゲ(レンゲソウ)	
コアカザ	
ゴウシュウアリタソウ	
ゴウダソウ	
コウマゴヤシ	
コウリントンポポ(エフデタンポポ)	〈総合対策〉
コガネギシギシ	
コケマンネングサ	
コゴメイスガラシ	
コゴメギク	
コゴメバオトギリ	
コゴメミズ(コメバコケミズ、ピレア・ミクロフィラ)	〈重点対策〉

コシナガワハギ		
コシミノナズナ		
コショウハッカ(セイヨウハッカ)		
コスモス		
コニシキソウ		
コハコベ(ハコベ)		
コバノセンダングサ		
コマツヨイグサ(キレハマツヨイグサ)	〈重点対策〉	※
コメツブウマゴヤシ		
コメツブツメクサ		
コメツブヤエムグラ		
コモチナデシコ		
サクラマンテマ		
サボンソウ		
サンシキスミレ(パンジー)		
サンシチソウ		
シオザキソウ		
シダレヤナギ(イトヤナギ)		
シチヘンゲ(ランタナ)	〈重点対策〉	
シナガワハギ		
シナサワグルミ(カンボウフウ、カンベイジュ)		
シバザクラ		
シバツメクサ		
シベリアメドハギ(カラメドハギ)		
シマツナソ(モロヘイヤ)		
シマボロギク		
シャグマハギ		
シュウカイドウ		
シュウメイギク(シウメイギク)		
シュクコンバーベナ		
ショウジョウソウ		
シラホシムグラ		
シロイヌナズナ		
シロザ(シロアカザ)		
シロタエヒマワリ		
シロツメクサ(クローバー)		
シロバナシナガワハギ		
シロバナセンダングサ(コシロノセンダングサ、シロノセンダングサ)		
シロバナヘビイチゴ(シロバナノヘビイチゴ?)		
シロバナマンテマ(ハイトリナデシコ)		
シンワスレナグサ(ワスレナグサ)		
スイセンノウ(フランネルソウ、リクニス)		
セイコヤナギ		
セイヨウアブラナ(セイヨウナタネ)		
セイヨウカノコソウ(キツソウ、バレリアン)		
セイヨウジュウニヒトエ(セイヨウキランソウ)		
セイヨウスイレン(ニンファ・アルパ)	〈重点対策:園芸スイレン〉	
セイヨウタンポポ	〈重点対策:外来性タンポポ種群〉	
セイヨウトゲアザミ		
セイヨウノコギリソウ		
セイヨウハコヤナギ(イタリアヤマナラシ)		
セイヨウヒキヨモギ		
セイヨウヒルガオ		
セイヨウフウチョウソウ		
セイヨウミヤコグサ		
セイヨウヤブイチゴ		
セイヨウワサビ		
セキチク(カラナデシコ)		
ゼニアオイ		
ゼンバアオイ		
センダングサ		
ソバ		
ソバカズラ		
ダイオウグミ(ビックリグミ)		

ダイコンモドキ	
ダキバアレチハナガサ	〈総合対策:アレチハナガサ類(アレチハナガサ、ダキバアレチハナガサ、ヤナギハナガサ(サンジャクバーベナ)、ヒメクマツヅラ(ハマクマツヅラ)〉
タケトアゼナ	
タチアオイ	
タチイヌノフグリ	
タチオランダゲンゲ	
タチチコグサ	
タチバナモドキ	
ダツタンソバ	
タマサング(フユサング)	
チチコグサモドキ	
チャンチン	
チョウセンシオン(チョウセンヨメナ)	
ツクバネアサガオ	
ツタバウンラン	
ツノミオランダフウロ	
ツボミオオバコ(タチオオバコ)	
ツルソバ	
ツルノゲイトウ	
ツルマンネングサ	
トウカエデ	
ドウカンソウ	
トウキンセン	
トウゴマ	
トウネズミモチ	〈重点対策〉
トキワサンザシ(ピラカンサ)	
トクサバモクマオウ(トキワギョリュウ)	〈重点対策〉
ドクゼリモドキ	
トゲナシヤエムグラ	
トゲミノキツネノボタン	
トベラ	
ナガエコミカンソウ	
ナガバハッカ	
ナガミノアマナズナ(アマナズナ)	
ナガミヒナゲシ	
ナツメ	
ナヨクサフジ(スムーズベッチ)	
ナンキンハゼ	〈総合対策〉
ニオイスマレ	
ニオイタデ	新規追加
ニチナンオオバコ	
◆ ニッケイ	
ニンジンボク	
ヌマハッカ	
ネバリノギク	〈総合対策〉
ネビキミヤコグサ	
ノウゼンカズラ・マダムガレン	
ノゲイトウ	
ノジヤ(ノヂヤ)	
ノハラガラシ	
ノハラジャク	
ノハラツメクサ	
ノハラナデシコ	
ノハラムラサキ	
ノボロギク	
ノムラサキ	
ノラニンジン	
ハイイロヨモギ	
ハイニシキソウ	
ハイビユ	
ハイミチャナギ(コゴメミチャナギ)	

ハキダメギク	
ハクチョウゲ	
ハゼラン	
ハタザオガラシ	
ハツユキノソウ	
ハナウリクサ(トレニア)	
ハナカタバミ	
ハナツクバネウツギ(ハナゾノツクバネウツギ、アベリア)	
ハナトラノオ	
ハナハギ	
ハナハッカ(オレガノ)	
ハナハマセンブリ	
ハナビシソウ	
ハナヤエムグラ	
ハマダイコン	
◆ ハマヒサカキ	
ハマワスレナグサ	
バラモンジン	
ハリゲタビラコ	
ハリセンボン	
ハルザキヤマガラシ(セイヨウヤマガラシ、フユガラシ)	〈総合対策〉
ハルジオン	
ハルシヤギク	〈総合対策〉
ヒラギナンテン	〈総合対策〉
ヒナキキョウソウ	
ヒナゲシ(ポピー)	
ヒメアメリカアゼナ	
ヒメイワダレソウ(ヒメイワダレ)	〈重点対策〉
ヒメオドリコソウ	
ヒメクマツヅラ(ハマクマツヅラ)	〈総合対策:アレチハナガサ類(アレチハナガサ、ダキバアレチハナガサ、ヤナギハナガサ(サンジャクバーベナ)、ヒメクマツヅラ(ハマクマツヅラ)〉
◆ ヒメシヤラ	
ヒメジョオン	〈総合対策〉
ヒメスイバ	〈総合対策〉
ヒメツルソバ(カンイタドリ、ポリゴナム)	〈総合対策〉
ヒメナズナ	
ヒメヒマワリ	
ヒメヒレアザミ	
ヒメムカシヨモギ	
ヒヤクニチソウ	
ヒユ(アカビユ)	
ヒルザキツキミノソウ	
ヒレアザミ	
ヒレハリソウ	
ピロードクサフジ(ヘアリーベッチ、シラゲクサフジ)	
ピロードモウズイカ	
ヒロハハコヤナギ(アメリカクロヤマナラシ、ナミキドロ)	
ヒロハフウリンホオズキ(センナリホオズキ)	
ヒロハホウキギク	
フウセンカズラ	
フクリンツルニチニチソウ	
フサアカシヤ	
フサフジウツギ(ニシキフジウツギ、チチフフジウツギ、ブドレア)	〈重点対策〉
ブタクサモドキ	
ブタナ	
ブドウホオズキ	
フヨウ	
フラサバソウ	
フランスギク	〈総合対策〉
ベニバナセンブリ	
ベニバナツメクサ	

ヘラオオバコ	
ヘラバヒメジョオン	
ホウキギク	
ホコガタアカザ	〈総合対策〉
ホザキマンテマ(マンテマモドキ、フタマタマンテマ)	
ホシアサガオ	〈総合対策〉
ホソアオゲイトウ	
ホソバカラスノエンドウ	
ホソバツルノゲイトウ	
ホソバノセンダングサ	
ホソバヒイラギナンテン	
ホソバヒメミソハギ	
ホソバフウリンホオズキ	
ボタンクサギ(ベニバナクサギ)	
マキバスマレ	
◆ マサキ	
マツバウンラン	
マツバゼリ	
マツバボタン	
マツヨイグサ	
マツヨイセンソウ(ヒロハノマンテマ)	
マメアサガオ	
マメゲンバイナズナ	
マルバアメリカアサガオ	
◆ マルバシャリンバイ	
マルバハッカ	
マルバフジバカマ(ユーパトリウム・チョコレート)	〈総合対策〉
マンテマ(マンテマン)	〈総合対策〉
ミソハギダマシ	
ミチタネツケバナ	
ミナトアカザ	
ミミヌガラシ	
ミヤガラシ	
ムクゲ	
ムシトリナデシコ(ハエトリナデシコ、コマチソウ)	〈総合対策〉
ムラサキウマゴヤシ(アルファルファ)	
ムラサキウンラン(ヒメキンギョソウ)	
ムラサキカタバミ	
ムラサキツメクサ(アカツメクサ)	
メキシコマンネングサ	
メグサハッカ	
モウズイカ	
モミジアオイ	
モモイロヒルザキツキミソウ	
モンツキウマゴヤシ	
ヤグルマギク	
ヤサカフウロ	
ヤナギハナガサ(サンジャクバーベナ)	〈総合対策:(アレチハナガサ類(アレチハナガサ、ダキバアレチハナガサ、ヤナギハナガサ(サンジャクバーベナ)、ヒメクマツヅラ(ハマクマツヅラ)))〉
ヤナギバヒメジョオン	
ヤマゴボウ	
ヤマモモソウ	
ヤワゲフウロ	
ユウゲショウ	
ユウゼンギク	〈総合対策〉
ヨウシュイボタ(セイヨウイボタ)	
ヨツバハコベ	
ラミー	
ルコウソウ	
ルビナス	
ルリジサ	
レンギョウ	

ロボウクモマダサ
ワタリミヤコグサ

侵入警戒外来種(3種)

ハリビユ	
アメリカミズユキノシタ(ルドウィジア・レベンス)	〈重点対策〉
◎ ブラジルチドメグサ	〈緊急対策〉

被子植物・単子葉類 (115種+1種)

指 国 定 内	外来種名(標準和名等)	生態系被害防止外来種リ ストのカテゴリー	備考(2015年版からの変 更など)
------------	-------------	-------------------------	-----------------------

強影響外来種(5種)

オオカナダモ(アナカリス)	〈重点対策〉
キシユウスズメノヒエ(カリマタスズメノヒエ)	〈総合対策〉
コカナダモ	〈重点対策〉
チクゴスズメノヒエ	〈重点対策〉
ホテイアオイ(ウォーターヒヤシンス)	〈重点対策〉

中影響外来種(10種)

アマゾンチカガミ(アマゾンフロッグピット、リムノビウム・ラエ ビガータム)	〈重点対策〉
オニウシノケグサ(トールフェスク、ケンタッキー31フェスク)	〈産業管理〉
カモガヤ(オーチャードグラス)	〈産業管理〉
コウガイセキショウモ	新規追加
コゴメイ	〈重点対策〉
シナダレスズメガヤ(ウィーピング・ラブグラス、セイタカカゼ クサ)	〈重点対策〉
ネズミムギ(ライグラス=ドクムギ属総称)	〈産業管理:ドクムギ属(イタリ アンライグラス、ペレニアルラ ※ イグラス)〉
ネズミホソムギ(交雑種)(ライグラス=ドクムギ属総称)	〈産業管理:ドクムギ属(イタリ アンライグラス、ペレニアルラ ※ イグラス)〉
ヒロハウシノケグサ(ヒロハウシノケグサ)	
ホソムギ(ライグラス=ドクムギ属総称)	〈産業管理:ドクムギ属(イタリ アンライグラス、ペレニアルラ ※ イグラス)〉
ミドリハカタカラクサ ※ノハラカタカラクサと同種?	
メリケンカルカヤ	〈総合対策〉

一般外来種(100種)

アツバキミガヨラン	〈重点対策〉
アフリカヒゲシバ(ローズソウ、ケナシヒゲシバ)	
アメリカスズメノヒエ(パビアグラス、オニスズメノヒエ)	
アレチイネガヤ	
イヌムギ	
イブキカモジグサ	
イワキアブラガヤ	
ウマノチャヒキ	
オオアマナ	
オオアワガエリ(チモシー、チモシーグラス)	
オオカニツリ	
オオクサキビ	〈総合対策〉
オオスズメノカタビラ	
オオセキショウモ(ジャイアントバリスネリア)	〈重点対策:外来セキショウモ (オオセキショウモ(ジャイアン トバリスネリア)、セイヨウセキ ショウモに酷似した外来種)
オオトキワツユクサ	
オートムギ(マカラスムギ)	
オオニワゼキショウ	
オオニワホコリ	

オニカラスムギ	
オランダキジカクシ(アスパラガス)	
カタボウシノケグサ	
カナリークサヨシ	
カラスノチャヒキ	
カラスムギ(チャヒキ)	
キショウブ	〈重点対策〉
キンガヤツリ(ムツオレガヤツリ)	
クロコヌカグサ	
クワイ	
ケナシハルガヤ	
コカラスムギ	
コスズメガヤ	
コヌカグサ(レッドトップ)	
コバンソウ	
サフランモドキ	
シマスズメノヒエ(ダリスグラス)	
ジュズダマ	
シュロ(トウジュロ)	
シュロガヤツリ(カラカサガヤツリ)	〈重点対策〉
シラー	
シラゲガヤ	
◆ シラタマホシクサ	
シンテッポウユリ(新鉄砲ユリ、タカサゴユリ)	〈総合対策〉
スイセンノウ	
スノーフレーク	
セイバンモロコシ(ジョンソングラス)	〈総合対策〉
セトガヤモドキ	
タチスズメノヒエ(バイジューグラス)	
タマスダレ	
チャボウシノシッペイ	
チョロギガヤ	
ドクムギ(ライグラス類=ドクムギ属総称)	〈産業管理:ドクムギ属(イタリ アンライグラス、ペレニアルラ ※ イグラス)〉
ナガイモ	
ナガバオモダカ(ジャイアントサジタリア)	〈重点対策〉
ナガハグサ	
ナギナタガヤ(ネズミノシッポ)	
ナツズイセン	
ニガカシュウ	
ニコゲヌカキビ	
ニセコウガイゼキショウ(マツカサコウガイゼキショウ)	
ニワゼキショウ	
ヌカススキ	
ノハカタカラクサ(トキワツユクサ、トラデスカンティア・フルミ ネンシス))	〈重点対策〉
ノハラカゼクサ	
バイモ(アミガサユリ)	
ハガワリトボシガラ	
ハタケニラ	
ハナクサキビ	
ハナニラ(セイヨウアマナ)	〈総合対策〉
ハナヌカススキ	
ハルガヤ(スイートバーナルグラス)	〈総合対策〉
ヒゲナガスズメノチャヒキ	
ヒノウキクサ	
ヒメカナリークサヨシ	
ヒメコバンソウ	
ヒメヌカススキ	
ヒメヒオウギズイセン(ヒメヒオオギズイセン、モントブレチア)	〈総合対策〉
ヒメムギクサ	
フイリダンチク	
ブライダルパール	
ボウムギ	

ホソナガバミズアオイ	
ホソミキンガヤツリ	
ボトス	
ミジンコウキクサ(コナウキクサ)	
ミズカンナ	
ミスジナガバグサ	
ミズヒナゲシ(キバナトチカガミ)	
ミノボロモドキ	
ムクゲチャヒキ	
ムスカリ	
ムラサキツユクサ	
ムラサキナギナタガヤ	
メリケンガヤツリ	〈重点対策〉
モウコガマ	
モウソウチク	
ヤクナガイヌムギ(ノゲイヌムギ)	
ライムギ	
ラッキョウ	
ラッパズイセン	
ルリムスカリ	

侵入警戒外来種(1種)

- | | | |
|---|-------------------|--------|
| ◎ | ボタンウキクサ(ウォーターレタス) | 〈緊急対策〉 |
|---|-------------------|--------|

滋賀県外来種リスト 2019

令和元年（2019年）12月 発行

編集：滋賀県野生動植物との共生に関する検討会

発行：滋賀県琵琶湖環境部自然環境保全課
生物多様性戦略推進室

520-8577 大津市京町 4-1-1